

# 組合支援 ウォッチ

## 九州北部豪雨を連携の輪で 乗り越えて

羽にけがを負った鶴が傷を癒やしたという開湯伝説を持つ原鶴温泉。今回の九州北部豪雨での被災者や多くの復旧ボランティアの方々を温泉の無料開放で癒したことをご存じだろうか。今、「原鶴にお越しになって、みなさんの元気を届けてください!」と、原鶴からメッセージが送られている。

平成29年7月5日から1時間に100mmを超える雨量が観測された九州北部豪雨。19日時点では、住宅の被害は、福岡県朝倉市と東峰村、大分県日田市を中心に670棟余りに上り、1,000人以上が避難生活を余儀なくされている。このような多数の家屋損壊のため、現状では復旧の見通しは立っておらず、避難生活のさらなる長期化は避けられない。真夏の猛暑が続く中、熱中症など体調面で不調を訴える被災者も多くおり、復興までの長く厳しい状況が続いている。

そのような中、甚大な被害が出た朝倉市では、原鶴温泉旅館協同組合の組合員が連携し、汗と泥にまみれ、着の身着のまま避難した人たちに無料で温泉を開放した。筑後川の水嵩が増し、浸水被害に遭った宿や落雷の影響で休業を強いられた宿もある中での取り組みの発端は、宿を経営する師岡哲也理事（花と湯の宿やぐまま荘社長）が5日、「無料開放する」と声を上げたことに始まる。支援の輪は、筑後川を挟んだうきは市の筑後川温泉と吉井温泉、甘木地区まであっという間に広がった。ある宿では、各地から衣服や下着、タオルなどが届けられ、被災者に提供し大変喜ばれたという。利用者は19日夜までに1万人を超えた。被災者の心と身体を温泉のぬくもりで癒やした。

同組合の井上善弘理事長は、「原鶴は全館通常営業中です。宿泊や宴会の受け入れも問題ありません。このような時だからこそ原鶴に来てほしい」と語っている。風評被害による出控えで予約のキャンセルが相次いでおり、キャンセルは19日までに9,000人に達する勢いとなって

おり、大打撃を受けている。報道では、被害ばかりがクローズアップされて訪れるのに躊躇されている方も多くいると思う。朝倉の夏の風物詩である「伝統漁法・筑後川の鵜（う）飼」も見学用の屋形船の流出・破損や川の状態が悪く、中断が続いているが、7月20日現在環境が整い次第早期再開予定だ。「原鶴温泉を訪れ利用する」それも支援の一つの形である。

原鶴温泉は、温泉総選挙2016（主催：うるおい日本プロジェクト、後援：環境省、国土交通省観光庁）で、「女子旅部門 全国第3位」に選ばれている。肌がすべすべしっとりして、アルカリ性の泉質は古い角質やくすみ除去に効果的だ。硫黄泉との絶妙なまざり具合はW（ダブル）美肌の湯と呼ばれており、キレイを目指す女性だけでなく、プールがあったりしてファミリー、カップルもゆったり過ごせる温泉地だ。ぜひ、朝倉の復興のため、この夏は、「伝説の鶴」のように原鶴で多くの方に羽を休めてほしい。

問い合わせについてはこちら

原鶴温泉旅館協同組合

TEL：0946-62-0001

HP：http://www.harazuru.jp/



原鶴温泉



温泉無料入浴券



朝倉豪雨災害救援物資

### 組合概要

組合名：原鶴温泉旅館協同組合  
住 所：朝倉市杷木志波26番地12  
理事長：井上 善弘  
T E L：0946-62-0001